

杏林大学産婦人科専門研修プログラム

A. 概要

杏林大学専門研修コースでは杏林大学医学部付属病院産科婦人科を基幹施設とし、連携指導施設とともに医療圏を形成して専攻医の指導にあたる。これは専門医養成のみならず、地域の安定した医療体制をも実現するものである。さらに、指導医の一部も施設を移る循環型の医師キャリア形成システムとすることで、地域医療圏全体での医療レベルの向上と均一化を図ることができ、これがまた、専攻医に対する高度かつ安定した研修システムを提供することにつながる。

研修は、原則として、杏林大学病院およびその連携病院によって構成される、専攻医指導施設群において行う。研修の順序、期間等については、個々の産科婦人科専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、杏林大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会が決定する。

週間予定表（例）

以下を参照してください。

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/obgy/recruit/schedule>

B. 杏林大学専門研修コースの具体例

・産婦人科専門医養成コース（basic course）；

杏林大学医学部付属病院2年間と専攻医指導施設において1年間の合計3年間で専門医取得を目指すプログラムである。基幹施設研修を開始する研修コースを基本とし、周産期重点コース、婦人科腫瘍重点コース、生殖医学重点コースなどは個々の専攻医に希望に基づいて変更することが可能である。

初年度は原則的に基幹病院である杏林大学医学部付属病院産科婦人科において、6ヶ月間ずつ産科病棟と婦人科病棟に配属され、周産期および婦人科腫瘍患者の診断・治療について研修する。またこの間、適宜不妊内分泌外来や更年期外来などにおいて外来診察の実践を研修しながら、不妊内分泌や女性のヘルスケアについても学習する。

2年目は、原則的に症例数が豊富な連携病院（総合型を含む）において、周産期、婦人科腫瘍、不妊内分泌、女性のヘルスケア全部門に関して万遍なく研修を行い、検査・診断等の技術を習得する。

3年目以降は原則基幹病院である杏林大学医学部付属病院産科婦人科において研修を行うが、その際には2年目の研修病院において研修が不十分な分野があればそれを考慮して産科病棟・婦人科病棟に配属し、専門医取得に必要な技術を習得する。またこの期間において、専攻医の希望に応じて周産期重点コース、婦人科腫瘍重点コース、生殖医学重点コースなど、各分野に重点を置いた研修を行う。なお3年目以降の研修においては、専攻医の受け入れ人数や本人の希望に応じて、地域医療を担う連携施設での研修や、不妊内分泌に特化した不妊専門クリニックでの研修なども行うことも可能である。

・産婦人科専門医大学院研修コース；杏林大学医学部付属病院で研修をしながら、大学院にも在籍し、専門医取得と並行して医学博士号を取得するためのプログラム。当大学では社会人大学院生制度が導入されており、通常の業務を行いながら、医員としての給与を貰

しつつ基礎研究を行うことが可能であり、大学院の間、最低半年間は病棟業務を免除し、研究に専念することが可能である。研究成果は原則英文で国際雑誌に発表し学位論文としている。

【連携病院実績：R5年度】

稲城市立病院（東京都稲城市）
国家公務員共済組合連合会立川病院（東京都立川市）
さいたま市立病院（埼玉県さいたま市）
東京歯科大学市川総合病院（千葉県市川市）
小山記念病院（茨城県鹿嶋市）

その他の連携病院

杏林大学医学部付属杉並病院（東京都杉並区）
日野市立病院（東京都日野市）
武蔵野赤十字病院（東京都武蔵野市）
佐々総合病院（東京都田無市）
国立病院機構埼玉病院（埼玉県和光市）
伊勢原協同病院（神奈川県伊勢原市）
など

後期研修プログラム（例）

1年目：杏林大学医学部付属病院

4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
産科	婦人科	産科	婦人科

最初の1年間は産科・婦人科各病棟のチームに配属され、病棟・外来業務を通じて研修します。分娩を自分で取り上げることはもちろん、帝王切開の術者、婦人科開腹術の術者・助手を行う。その他、超音波診断や外来化学療法管理、子宮卵管造影や子宮鏡、コルポスコーピーなど外来の各種検査についても研修していく。

2年目：連携施設で1年間研修

全ての領域をまんべんなく研修する。外来診療を独り立ちし、手術の術者・助手も多数経験し、生殖医療や女性医学も研修する。東京都地域枠の専攻医は指定勤務を考慮した研修施設を選定します（太字施設）。

《研修施設実績》

2020年度：公立昭和病院、国立病院機構 埼玉病院、**国家公務員共済組合連合会 立川病院**、東京歯科大学市川総合病院、**東京都立墨東病院**、**武蔵野赤十字病院**

2021年度：**稲城市立病院**、公立昭和病院、小山記念病院、国立病院機構 埼玉病院、**国家公務員共済組合連合会 立川病院**、さいたま市立病院、東京歯科大学市川総合病院、**東京都**

立墨東病院、武蔵野赤十字病院

2022年度：稲城市立病院、小山記念病院、国家公務員共済組合連合会 立川病院、東京歯科大学市川総合病院、東京都立墨東病院

2023年度：稲城市立病院、小山記念病院、国家公務員共済組合連合会 立川病院、さいたま市立病院、東京歯科大学市川総合病院、立正佼成会附属 佼成病院(現 杏林大学医学部付属 杉並病院)

3年目：杏林大学医学部付属病院

産科もしくは婦人科を1年間研修する。2年目の出向施設によっては地域研修が可能な施設へ短期出張する可能性もあり。

連携病院での経験が不足していた分野を中心に研修していく。サブスペシャリティの学会にも積極的に発表していく。産科ローテーション中に2カ月間のNICU研修を行っている。

4年目：杏林大学医学部付属病院

婦人科もしくは産科を1年間研修となる。専門医試験受験資格を満たしながら、試験への準備を進めていき、例年夏に専門医試験受験となる。

5年目以降

引き続き杏林大学医学部付属病院に勤務し、サブスペシャリティの専門資格取得を目指す。また大学院へ進学することも可能。[連携病院](#)へ出張し地域の産婦人科医療へ貢献することもある。

・**女性医師支援研修コース**；女性医師で結婚しているために研修に十分時間がとれない場合のプログラム。女性医師の子育て支援のため、日勤帯を基本とした研修プログラムを 個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成する。研修期間は3年を基本とするが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能である。

・**復帰支援研修コース**；妊娠・出産などで一時的に職場を離れた場合の復帰を支援するプログラム。女性医師支援研修コースと同様に日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成する。研修期間は3年を基本とするが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能である。

C. サブスペシャリティの専門医の取得

杏林大学産婦人科研修プログラムは専門医取得後に以下の専門医・認定医取得が可能である。

- ・日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医
- ・日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医
- ・日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

- ・日本超音波学会超音波専門医
- ・日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医
- ・日本臨床細胞学会細胞診専門医

専門医取得後には、「サブスペシャリティ産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科4領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示する。

D.サブスペシャリティの取得のための専門コース

産婦人科専門医取得後には、希望に応じて各サブスペシャリティの専門医を取得する重点コースを設けている。重点コースには5コース（婦人科腫瘍重点コース、周産期重点コース、女性のヘルスケア重点コース、内視鏡手術重点コース、生殖・内分泌重点コース）を設け、各研修プログラムに特徴を持たせ、専門医研修コースに入るまでに、個々の目的に合わせたキャリア形成を早期から図ることができる。

a) 周産期重点コース：正常妊娠の診断・管理・分娩に関わる知識・技術の習得、胎児診断の基礎的技術の習得、新生児管理の基礎的技術の習得を行いながら周産期専門医の取得を目指す。希望があれば小児科との連携のもとにNICUでの研修も行う。当院は東京都の多摩地区では2つしかない総合周産期母子医療センターのひとつ(NICU 15床、MFICU 12床)であり、分娩数は約800例で、ハイリスク妊娠を扱うため帝王切開率は40%を超えている。また母体搬送の受け入れも積極的に行っており年間100例を超え、スーパー総合周産期センターであるため産後の重症症例も積極的に受け入れている。

b) 婦人科腫瘍重点コース：婦人科腫瘍専門医（7名）の指導の下、婦人科悪性腫瘍の診断に要する各種検査方法・病理学診断と治療計画立案に関わる知識・技術の習得、腹部手術の基本手技から解剖に則った骨盤外科手技を習得、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌における手術療法、術後化学療法、放射線療法など集学的治療を学び、癌治療における全般的な知識と治療経験を積む。また院内緩和ケアチームと協力しながら終末期医療に対する知識や技術も習得できる。定期的な病理カンファレンスの他に、希望者には病理学教室との連携のもとに細胞診や病理組織診断の研修も行う。これら研修を通じて婦人科腫瘍専門医や細胞診専門医の取得を目指す。

c) 女性のヘルスケア重点コース：閉経という女性が必ず迎える内分泌的な変化以降に生じる多くの疾患を管理しトータルヘルスケアを目指す。また若年者の月経不順や、特に当院では若年悪性腫瘍患者で内性器全摘や放射線治療によって性腺機能が廃絶した症例において悪性腫瘍治療後のホルモン補充療法や脂質代謝異常、骨粗鬆症などの予防や治療に関して力を入れており、これら症例について専門外来を通じて研修を行い、女性医学学会専門医の取得を目指す。

d) 内視鏡手術重点コース：婦人科病棟に主に配属され、内視鏡技術認定医（2名）の指導のもと、内視鏡手術の実際を研修し、術者としての技術習得を行う。また当科では院内のドライラボでの研修や、年2～3回程度外部の内視鏡トレーニングセンターでの内視鏡訓

練を行い技術の向上を目指している。

e)生殖・内分泌重点コース：不妊患者の診断・管理・治療を不妊専門外来において専門医の指導のもとに研修を行う。また不妊治療に特化した連携施設での研修も随時行いながら、将来的に生殖専門医の取得を目指す。

またロボット支援下手術に関してもライセンスの取得などの指導を行っていく。

以上の各重点コースでは、上級指導医の指導の下で、症例発表以上の学会発表と論文作成を到達目標に入れている。

指導スタッフ

・小林陽一（教授）慶応義塾大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医、女性ヘルスケア専門医・指導医、日本肉腫学会専門医・指導医、日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍指導医、母体保護法指定医師

・谷垣伸治（教授）慶応義塾大学卒

日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本超音波医学会超音波専門医・指導医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、日本アロマセラピー学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コースインストラクター、日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）及び指導医母体保護法指定医師、ALSO JAPAN 認定インストラクターThe Fetal Medicine Foundation 認定NT certificate（NT 資格）、日本母体救命システム普及協議会インストラクター

・森定徹（臨床教授）慶応義塾大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医

・田嶋 敦（准教授）信州大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期新生児医学会 母体胎児専門医・指導医、日本超音波医学会 専門医・指導医、日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医、臨床研修指導医、母体保護法指定医、The Fetal Medicine Foundation 認定 NT certificate（NT 資格）

・松本浩範（講師）杏林大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

・百村麻衣（講師）杏林大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医、日本がん治療認定

医機構がん治療認定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、遺伝性腫瘍専門医

・ 澁谷裕美（学内講師）杏林大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、遺伝性腫瘍専門医

・ 松島美穂（学内講師）杏林大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、日本超音波医学会 専門医、The Fetal Medicine Foundation認定NT certificate（NT資格）

・ 橋本志歩（学内講師）秋田大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本がん・生殖医療学会認定がん・生殖医療ナビゲーター、母体保護法指定医

・ 渡邊百恵（助教）杏林大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医

・ 小林千絵（任期付助教）聖マリアンナ医科大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会専門医、女性ヘルスケア専門医

・ 北村亜也（任期付助教）東邦大学卒

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会専門医、日本超音波医学会 専門医

